Mite Mite

「人と、街と、劇場をつなぐ。」 オーバード・ホール情報誌

2022- spring
VOL. 72

AUBADE HALL

2022年度 富山市民文化事業団 主催公演ラインナップ

A 4/16 SAT・17 SUN
ミュージカル
「ラ・カージュ・オ・フォール
～籠の中の道化たち～」

B 4/28 THU ～30 SAT
日仏共同製作 新作舞台作品
束芋×ヨルグ・ミュラー
「もつれる水滴」

C 6/16 THU・9/15 THU 12/3 SAT 全3回
劇場が結ぶ、本と音楽の世界
vol.1「羊と鋼の森」
vol.2「マチネの終わりに」
vol.3「マリコとオペラ」

D 6/25 SAT・26 SUN
ミュージカル「四月は君の嘘」

6月～10月
AUBADE HALL Presents
ワークショップ
「WE♡MUSICAL」2022
会場：富山市民芸術創造センター

6月～2023年3月 全6回
市民のためのランチタイム
ジョイフル コンサート
会場：富山市民プラザ

E 7/9 SAT
森山開次 新版・NINJA

F 7月～12月 全6回
AUBADE HALL Presents
音楽入門講座
「ビートルズ大学 TOYAMA」
会場：富山市民プラザ
アンサンブルホール

7月開催予定
AUBADE HALL Presents
プラネライブ
会場：富山市科学博物館
プラネタリウム

7月開催予定
第27回 オーバード・ホール
劇場ツアー

G 8/17 WED・18 THU
朗読劇 泉ピン子の
「すぐ死ぬんだから」

8月～10月
AUBADE HALL Presents
コミュニティ・アーツ・
ワークショップ2022
会場：富山市民芸術創造センター

8月～12月 週末全10回予定
オーバード・ホール アウトリーチ企画
ウィークエンド・コンサート2022
会場：市内各地区

H 9/14 WED
宝塚歌劇 星組 富山公演

9/17 SAT・11/20 SUN
桐朋アカデミー・オーケストラ
特別演奏会

9月開催予定
2022年劇団☆新感線42周年秋興行
新感線RX
『薔薇とサムライ2～海賊女王の帰還』

I 10/15 SAT ～17 MON
ミュージカル「ミス・サイゴン」

11/5 SAT・6 SUN
トヤマ・パフォーミングアーツ・
フェスティバル2022
会場：富山市民芸術創造センター

J 11/12 SAT
KENTO MORI
LIVESHOP
会場：グランドプラザ

K 12/23 FRI
熊川哲也 Kバレエ カンパニー
「くるみ割り人形」

12/25 SUN
第九交響曲
“歓喜の夕べ”2022

〈2023年〉

L 1/21 SAT
山田和樹指揮 読売日本交響楽団
ピアノ：中瀬智哉

1月～2月開催予定
第33回 富山市美術作家連合会展
会場：富山市民プラザ

1月開催予定
第19回 オーバード・ホール
ベーゼンドルファーピアノ体験

M 2/23 THU
AUBADE SYMPHONIC
WAVE 2023

3/25 SAT・26 SUN
楽市楽座 アート・ショーケース

2022-2023 LINE UP

※会場名の記載がない会場は、全てオーバード・ホールです。※情報は2022年3月17日現在のものです。このほかにも後日発表となる公演がございます。
※新型コロナウイルス感染状況によっては、公演の開催に変更が生じる場合がございます。最新情報はオーバード・ホール公式HPをご確認ください。

空間／サーカスと時間／アニメーションのあわい

アートアニメーション　コンテンポラリーサーカス

束芋×ヨルグ・ミュラー

日仏共同製作　新作舞台作品

もつれる水滴

©watsonstudio

いま富山から世界へ

日本の現代美術家 束芋（たばいも）とフランスを拠点とする現代サーカスパフォーマー ヨルグ・ミュラーによる日仏共同製作 新作舞台作品「もつれる水滴」が2022年4月、オーバード・ホールで世界初演を迎える。2年間にわたる遠隔制作などを重ね、ようやく昨年12月には富山で1ヶ月間の滞在制作を実現した。国際的に活躍するアーティストのクリエイション現場が地方都市に置かれるのは異例なことだ。本作は東京・山口・沖縄、さらにフランスツアーも予定されている。世界へ向けて、新たなパフォーミングアートの幕開けを前に、富山で制作中のふたりにお話をうかがった。

interview

――まず始めに、束芋さんとヨルグさんがコラボレーションすることになったきっかけについてお話しいただけますか？

束芋：最初のきっかけをつくってくれたのは振付家・ダンサーの森下真樹さんです。森下さんと私は2013年の初演以来、『錆からでた実』という作品をシリーズで共作してきました。2020年にこの作品のアメリカツアーに参加してくれたのが、今回『もつれる水滴』にもダンサーとして出演し、演出助手も務める間宮千晴さんです。2019年に、彼女が拠点としている南フランスのアラスという街を訪ねたときに、ヨルグさんと千晴さんのパフォーマンスを観る機会があって、それがほんとうに素晴らしかった。終演後すぐにゆっくり食事をしながら、ぜひご一緒したい、日本で作品をつくりませんか？とお話ししました。

ヨルグ：私はそのときすでに束芋さんの作品をアルルの美術館で観たことがあったんです。ビジュアルアートの作家とコラボレーションするのは初めてでしたが、とても力強い作品という印象を持っていたので、よろこんで引き受けました。

ヨルグ・ミュラー／Jörg Müller
|サーカスアーティスト
1994年CNAC（国立サーカス学校）卒業。パフォーマーとして約30年のキャリアを持ち、ヨーロッパのパフォーミング・アートの分野でユニークな存在となり、批評家や専門家からは、現代サーカスの主要人物の一人として認められている。

©空耳カメラ

――ヨルグさんは「ヌーヴォーシルク」と呼ばれる、ジャグリング、ダンス、演劇、音楽、彫刻など多彩な要素が織り込まれた現代サーカスのパフォーマーとして世界的に知られています。東京の座・高円寺で開催された来日公演ではその端正な美しさに息をのみました。束芋さんにとってヨルグさんはどのようなアーティストですか？

束芋：ヨルグさんのパフォーマンスはいわゆるステレオタイプのジャグラーとはまったく違います。最大の特徴は、ジャグリングであつかうオブジェと彼自身とのあいだに関係性をつくりあげ、極限まで研ぎ澄ませるその創作プロセスです。まるで魔法のようにオブジェに命が吹き込まれてひとりでに動き出しますが、常に危険と隣り合わせで、背後には緻密に切り詰められた仕組みが構築されています。そのからくりの必然性をイメージしたとき、ワクワクと興奮を覚えるんです。従来のサーカスの概念を超えた哲学的な作品世界をつくりだすアーティストです。

ヨルグ：ダンスや美術は長い歴史を持つ芸術ですが、サーカスは比較的歴史の浅い「若いアート」といえるでしょう。サーカスのパフォーマンスは常にリスクから始まるもので、かつては劇的でスペクタクル性を強調されたものでした。私が手がけているヌーヴォーシルクという分野では、シアトリカルな要素を削ぎ落とし、エッセンスを深めようとします。たとえば、空中に投げ上げた玉が落ちてくるまでにどんなことができるだろうか、ということを極限まで思考する。それが現代サーカスのクリエイションなのです。

――いっぽうで束芋さんは、日本の現代社会や個人の日常にひそむ不条理性や毒性を炙り出すアニメーションで国際的に評価されてきました。ヨルグさんと対照的に、きわめて具象的に世界の様相を取り扱うアーティストといえます。

束芋：ヨルグさんの完成されたピュアな世界観に異物が投入されて、かき回すかたちになると思います。ヨルグさんの身体と私の映像をあえて融合させず、いかにして互いに干渉させるか。そこにトライしたい。この作品ではアニメーションの新しい投影方法を模索して、これまでにない角度でヨルグさんの緻密な技術をインスパイアできたらと考えています。そのひとつに「恐怖」というキーワードがあります。彼のジャグリングの出発点である「危険」の気配が、私のアニメーションに一貫して内在する「得体の知れない恐怖」とリンクすることで、観客の感覚に未知の刺激をもたらすかもしれない。

――その創作プロセスのなかでも特に時間をかけて、工夫したところはどのようなことでしたか？

束芋：ネタバレになるので詳しくはお話しできませんが・・・後半のシークエンスで、あまり前例のない舞台装置を立て込む必要があって、日本で何度も実験したんですがどうしてもうまく機能しなかったんです。ところがフランスでヨルグと一緒にスタジオに入ったら、即座に仕組みを理解して、サーカスの道具を仕立てるようにダダダっと、あっというまにシステムを立ち上げてくれました。いろいろな映像インスタレーションの経験を重ねてきましたが、今回事前に緻密に考えたことが現場で機能しないケースもあるということを知る機会になりましたね。アニメーション映像についても実験的な試みにチャレンジしています。私の作品の持ち味である重層性を捨てて、あえてコントロールせずフレキシブルになることに挑戦しました。

ヨルグ：サーカスパフォーマンスの制作プロセスでは、マテリアルは常に生ものなのです。リアルな危険のリスクを考えるところから発想が生まれます。劇場のテクニカルスタッフと一緒にメカニズムを発展させ、その仕組みをオープンに開示することも大事です。

束芋：キャストもスタッフもそのプロセスに辛抱強く付き合ってくれる方たちばかりで本当にありがたいです。なかでもドラマトゥルグで参加してくれた、南仏でヌーヴォーシルクのカンパニーを主宰するソフィ・ポースウィックは演出面でなくてはならない存在です。

ヨルグ：ソフィのカンパニーではとてもシンプルな方法でアイデアを提示します。オブジェとの関係性やアプローチの枠組みをいったん外して、ワークプロセスのなかで育っていくものを見つめていると、おのずとそこにストーリーが生まれてくる。マテリアルは有機的なものなので、理解するには時間がかかります。マジックショーのようにはいきません。この作品でも、空間芸術であるサーカスと時間芸術であるアニメーションのあいだに、両者が有機的に絡み合う軸を新たに見つけようとしてきました。

束芋／Tabaimo |現代美術家
1999年キリン・コンテンポラリー・アワード最優秀作品賞受賞。以後2001年第1回横浜トリエンナーレを皮切りに、2011年には第54回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家に選出される等、数々の国際展に出品。近年は舞台でのコラボレーションも展開。

©空耳カメラ

――ヨルグさんのクリエイションの方法には科学者の思考に近いところがあるのでしょうか？

束芋：ソフィさんは「ヨルグの創作のプロセスを見ていると、すごく原始的で奇妙なので、映画『2001年宇宙の旅』のラストシーンに登場する類人猿を思い出す」と言っていました。ゆっくりと歩みながら核心に近づいていって、イメージを招き入れた瞬間、アクロバティックに決まる。そこから全てが動き出すと。

ヨルグ：サーカスはワイルドなアートですから！ 重力と拮抗する機構をギリギリまで考察するところは確かに科学的といえるかもしれません。「空中の玉が落ちるまでに何ができるか」を思考するために、何度も何度も同じアクションを繰り返す。するとやがて磁力で端から砂鉄が集まってくるように、無意識から意識にアイデアが上がってきて、あらゆる要素が再び繋がり合う。そこで類人猿がようやく人間に進化するんです。

束芋とヨルグ、まったく異なるバックグラウンドを持つ2人の表現へのアプローチは、長期にわたる考察と実験を通して絶妙のバランスを見いだしてきた。一見混沌としたプロセスから必然的に導きだされたイメージが結実する本番では、この複雑な世界を紐解くひとつの仕組みが解明されるはずだ。

住吉智恵（アートプロデューサー /RealTokyoディレクター）

いま、もつれあい結実する未知なるイメージ

公演情報

日仏共同製作　新作舞台作品
束芋×ヨルグ・ミュラー「もつれる水滴」

◆日時：2022年4月28日（木）、29日（金）、30日（土）
19:00開演　14:00開演　14:00開演
◆会場：オーバード・ホール　舞台上特設シアター
◆構成・演出：束芋、ヨルグ・ミュラー
ドラマトゥルグ：ソフィ・ポースウィック
出演：ヨルグ・ミュラー、間宮千晴
音楽：田中啓介
ヴォイス：大隅健司
◆チケット：［全席自由・整理番号付・税込］
一般：4,000円　U-25：2,000円 ※鑑賞時25歳以下対象。ご入場の際、身分証の提示が必要です。　※未就学児入場不可。
◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

予告PV

◆関連企画をチェック !!　詳細はこちら↓
①ヨルグ・ミュラー　ワークショップ「Juggling is a game」
②束芋　制作ドキュメンタリー上映会
③#富山カフェ部とのコラボ　特製スイーツが期間限定で誕生！

©watsonstudio

MORIYAMA KAIJI 新版 NINJA 忍者

森山開次と新国立劇場が贈る、新感覚のファミリー向けダンス公演『NINJA』。2019年の初演は大きな反響を呼び、異例の早さで再演が決定。しかも今回は、初演作品をさらにパワーアップさせ、観応えのある作品にアレンジして参上！ 驚きの身体能力を持つダンサーたちが、植物や昆虫など自然と一体化した忍びの衣裳で所狭しと舞い踊ります。刺激的な映像も圧巻！ おとなも子どもも世代を超えて楽しめるエンターテインメントが、この夏いよいよ、山を飛び谷を越え、富山のまちへやってきます！

追伸～

『NINJA』のチラシの絵は、私が描いています。少年時代は、忍者ごっこと同じくらい、絵を描くのが好きな少年でした。今も絵を描くのは大好きで、絵を描いてイメージを膨らませて作品を作るのが好きなのです。チラシには、いろんな忍び達が描かれていますが、舞台に登場するキャラクターたちが、こっそり隠れています。今回再演に際して、天狗や姫や蝶などの新しい絵も追加しました。

森山開次

21歳でダンスを始め、2005年『KATANA』でNYタイムズ紙に「驚異のダンサー」と評され、07年ヴェネツィア・ビエンナーレ招聘。12年芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。19年『ドン・ジョヴァンニ』でオペラ初演出、20年新国立劇場バレエ団『竜宮 りゅうぐう』で全幕バレエの演出振付美術衣裳を初めて手がけ、世代を超えて多くの観客を魅了した。21年TOKYO2020パラリンピック開会式演出など、ダンサー、演出家の両面で積極的に活動している。

©石塚定人

演出・振付・アートディレクション・出演
森山開次

再び『NINJA』を再演する機会をいただき、心から嬉しく思います。最高なダンサー、スタッフたちと作り上げた『NINJA』を、さらに進化させて再演に挑みます。童心に返って壮大な忍者ごっこ！

私にとって忍者は、憧れであり、想像力を掻き立ててくれる存在。思いっきり空想して、思いっきり踊って作りました。少年時代、近所の野原を駆け回り、基地を作ったり、オリジナル手裏剣を作って飛ばしたり、独自の忍法を編みだそうと夢中で遊んだ日々を思い返しながら、厳しく楽しい修行の稽古を積んで臨みます。森にひっそり忍ぶユニークな忍びたち。こっそり富山に忍び込み、ごっそり心を奪いに参ります。

「もっともっとダンスを子どもたちに届けたい！」

子どもからおとなまで楽しんでいただける作品です。皆様のご来場を心待ちにしております。『新版・NINJA』どうぞご期待ください。

少年時代の忍者ごっこ体験が創作の原点に。

シュッ シュッ シュッ

ニン ニン!!

富山出身。2021年TOKYO2020パラリンピック開会式フィナーレでは、少女演じる飛行機の片翼を押す「風」を好演し、話題となった。

ダンサー：水島晃太郎

いろんな生き物に扮したダンサーが劇場を縦横無尽に駆け巡り、「次はどんなことが起こるんだろう」と誰もがワクワクする展開で可愛らしくも妖しい不思議な『NINJA』の世界へと連れていきます。舞台中に散りばめられた素敵な瞬間を是非多くの方に観ていただきたいです。

幼い頃に憧れたオーバード・ホールの舞台に立ち、大好きな作品を通してダンスの楽しさを子どもたちに届けることができる喜びに僕自身もワクワクしています！

シュッ シュッ シュッ

子どもたちに もっとダンスを 届けたい！

富山出身。2009－2018年「Noism01」所属。現在はミュージカルにも活躍の場を広げ、4月16日・17日オーバード・ホールで上演するミュージカル「ラ・カージュ・オ・フォール」にも出演する。

ダンサー：中川賢

僕が富山でダンスを始めた5歳の時の初めての踊りが、忍者でした。時を経て、森山開次さんという才能を通じて、富山で『NINJA』を踊ることに奇妙で不思議な縁を感じずにはいられません。何か面白いことが起きる気がします。どうぞお楽しみに！

シュッ シュッ シュッ

童心にかえって、思いきり楽しみたい。

東京生まれ。舞台や映画、広告やCMなどの衣裳デザイン・製作で活躍中。最近では、2021年TOKYO2020パラリンピック開・閉会式コスチュームサポートなど活動の場を広げている。

衣裳：武田久美子

忍者と聞いて皆さんは何を思い浮かべるでしょう。私は「カモフラージュ」が頭に浮かびました。溶け込むように自然と一体化していた忍びの者として、私の忍者たちにはそれぞれ動植物や昆虫、海、空の生物のモチーフを衣裳に取り入れています。これは何かなと想像して楽しんでいただけると嬉しいです。そして忍者だけではない、日本独自のキャラクターも出てくるのでお楽しみに！

シュッ シュッ シュッ

公演情報

森山開次　新版・NINJA

◆日時：2022年7月9日（土）14:00開演
◆会場：オーバード・ホール
◆演出・振付・アートディレクション：森山開次
◆出演：森山開次、浅沼圭、碓井菜央、川上環、中川賢、引間文佳、藤村港平、美木マサオ、水島晃太郎、宮河愛一郎
◆チケット：［全席指定・税込］
S席一般：5,000円／S席ジュニア：2,500円
A席一般：4,000円／A席ジュニア：2,000円
※ジュニアは4歳から高校生までが対象です。※4歳未満入場不可。
◆チケット発売日：
アスネット会員先行：5月7日（土）のみ
一般発売：5月15日（日）～
◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

※やむを得ない事情により、出演者等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

舞台写真　撮影：鹿摩隆司

人気作家×演奏家による、クロストーク&コンサート!

劇場が結ぶ、本と音楽の世界

「言葉」と「音楽」が織りなす至福のひと時をご一緒に。

◆ ナビゲーター：浦久俊彦
（文筆家・文化芸術プロデューサー）

© 新津保 建秀

一曲の名曲は人生を謳い、一冊の名作は人生を語る――。

たった一冊の本との出会いが運命を変えたり、たった一曲の歌に救われることがあるように、本と音楽には人生を動かす大きな力があります。文字で描かれた世界のなかにも音があり、音の世界のなかにも「ことば」が息づくように、もしかすると、このふたつはどこかでひとつにつながっているのかも知れません。

「本と音楽のすてきな出会い」をコンセプトに、音楽をこよなく愛する作家と日本を代表する演奏家による、これまでにないトーク&コンサート・シリーズがいよいよスタートします。なごやかなトークとともに美しい音楽を味わい、文学と音楽の新たな魅力に出会う、オーバード・ホールならではの知的でおしゃれなコンサートです。

ピアノ調律師をめざす青年と音の叙情詩～『羊と鋼の森』

『羊と鋼の森』文春文庫
定価：本体680円（税別）

第1回のゲストは、作家 宮下奈都さんと、日本を代表する若手ピアニスト 金子三勇士さん。宮下さんの代表作『羊と鋼の森』は、2016年の本屋大賞受賞作。2018年には映画化（出演：山﨑賢人ほか）され話題を呼びました。主人公は、ピアノ調律の世界に魅せられ調律師を目指すひとりの青年ですが、この小説のもうひとつの主役はピアノです。この楽器に魅了された人々のさまざまな想い、そしてひたむきさが、読む人を優しい気持ちにしてくれる小説です。単行本の帯には、「ピアノの調律に魅せられた一人の青年。彼が調律師として、人として成長する姿を、あたたかく静謐な筆致で綴った、祝福に満ちた長編小説」とあります。

デビュー10周年を迎え、クラシックの名門ドイツ・グラモフォンから新譜がリリースされるなど、めざましい活躍を展開している金子三勇士さんは、この小説に登場するピアノ曲だけでなく、自身のハンガリーでの少年時代の思い出にちなんだ作品も演奏します。ふつうのリサイタルでは知ることのできない、金子さんの素顔も垣間見ることができる、ファンには見逃せない企画です。

公演情報

劇場が結ぶ、本と音楽の世界〈全3回〉

vol.1「羊と鋼の森」 6月16日（木）19：00開演
宮下奈都（作家）× 金子三勇士（ピアノ）× 外山洋司（調律師）

© 堀田芳香

©Ayako Yamamoto

vol.2「マチネの終わりに」 9月15日（木）19：00開演
平野啓一郎（作家）× 大萩康司（ギター）

© 瀧本幹也

©SHIMON SEKIYA

vol.3「マリコとオペラ」 12月3日（土）15：00開演
林真理子（作家）× 小林沙羅（ソプラノ）× 望月哲也（テノール）× 河野紘子（ピアノ）

©NIPPON COLUMBIA

©FUKAYA Yoshinobu

◆ 会場：オーバード・ホール
◆ チケット：［全席指定・税込］
シリーズ通し券　一般：7,500円／ジュニア：2,400円
1回券　一般：3,000円／ジュニア：1,000円
※ジュニアは小学生から高校生までが対象です。　※未就学児入場不可。
◆ チケット発売日：
アスネット会員先行：4月16日（土）のみ
一般発売：4月24日（日）～
◆ プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

日本が世界に誇る調律師による、調律の世界のひみつも！

このコンサートならではの、もうひとつの楽しみは、調律師の世界を知ること。多くの世界的なピアニストからの信頼も厚い、日本を代表する調律師 外山洋司さんを特別ゲストとしてお迎えします。普段みることのできない、ピアノ・リサイタルの裏側や、調律師の仕事、ピアニストとの信頼関係など、ピアノの世界がより大きく広がるような、新たな発見への旅にみなさまをお誘いします。どうぞ、ご期待ください。

劇場で公演を楽しむことができるのは、演者はもちろんのこと、それを影で支える人がいるから。開演前の準備をする現場に潜入して、その仕事を探ります。

ライター上坂真紀の「劇場を支える人々」

その場を、劇場にする情熱。

身体と一緒に、心も踊る。

踊りには、人を自由にする力があるようだ。昨年11月、富山市障害者福祉プラザで開催された「コミュニティ・アーツ・ワークショップ」を見学した。講師は、ダンスアーティストのなかむらくるみさん。隣にはミュージシャンの方々。そして、参加者は、障がいのある方々とその家族の方々である。

くるみさんは、友だちに話しかけるように、みんなをやんわりと踊りへ誘う。ギターの音色や歌声に合わせて、手で波を表したり、エア雪玉を隣へ順にまわしたり、身体を動かしながら自己紹介をしたりと、みんなで少しずつ踊りに親しんでいく。

最初はうつむきがちだった参加者も、徐々に顔を上げ、前を向くようになる。かけ声への反応が早くなり、一つひとつの動きが大きくなっていく。表情に明るさも増していく。終盤には、音が鳴り止んでもまだ踊り続けている人がいた。

十数年越しの想いを背に。

ワークショップの途中、参加者の一人として輪の中に溶け込んでいる人がいた。この企画を一から考案・実行し、全責任を背負う山本倫子さんである。

開催前には、スリッパや椅子の準備、参加者の誘導、室温調整などを率先して行っていた。また開催中には、時計の針を気にかけながら全体を俯瞰し、時には参加者と一緒に踊って場を盛り上げていた。一瞬たりとも気を抜けない状況である。そんな時でも、最後まで広い視野と細やかな心が損なわれることはなかった。

「十数年前、車椅子ダンサーたちと支援学校を訪問しました。その時の豊かな時間が忘れられず、障がいのある方も一緒に踊れたらいいなとずっと思っていたんです」。── 今年8月からは、ワークショップの第2弾が開催される予定だ。

劇場が生きていると思える瞬間。

山本さんの仕事は企画の立案だけでなく、講師の選定やチラシなどの作成、施設や学校への交渉、宿泊の手配など幅広い。イベント終了後も数々の仕事が待っているため、達成感を自覚できないまま次の業務へ移るのが常だという。

それでも彼女は仕事への情熱を絶やさない。企画に先立って、くるみさんが主宰するダンスクラスへの参加、オンライン研修の受講、さらには手話講座にも通い時間をかけて丁寧に向き合ってきた。同僚の藤田さんは、「山本さんはまず自分でやってみるんです。現場を知ったうえで一歩一歩着実に進めていく方なんです」と話す。

「一番好きな光景は、オーバード・ホールでカーテンコールに拍手を送っているお客様の背中。劇場が生きていると思えるんです」。そう話す彼女の今の夢は、国籍や年齢、性別、障がいの有無を超えて多くの人々が集まり、心の内を表現するようなダンスを通して、地域とゆるやかにつながっていくアート企画を実現することだ。今回のように、人々が同じ空間で時間と感動を共有すれば、そこは劇場になる。いつか、どこかで、また彼女の夢をこの目で見たい。

総務企画課　企画係長　山本倫子
Yamamoto Noriko

高岡市出身。大学卒業後、オーバード・ホールが開館した年に富山市民文化事業団に入って25年。「コミュニティ・アーツ・ワークショップ」のほか、「ミュージカルワークショップ」「プラネライブ」などを担当している。

主催公演情報

4／16 Sat・17 Sun　ミュージカル「ラ・カージュ・オ・フォール～籠の中の道化たち～」

鹿賀ジョルジュ＆市村ザザ ラブフォーエバー！
永遠の夫婦愛で導く、固く結ばれた家族の絆！

- ◆ 出演＝鹿賀丈史、市村正親 ほか
- ◆ 開演＝4/16（土）12：00 ／ 17：00
  4/17（日）12：00
- ◆ 会場＝オーバード・ホール
- ◆ 料金＝［全席指定・税込］S席14,000円
  A席9,500円　B席6,000円　U-25 4,000円

好評発売中

6／17 Fri　市民のためのランチタイム　ジョイフル コンサート Vol.83

富山で活躍する音楽家たちによるコンサート。
心豊かなランチタイムのひととき。

- ◆ 出演＝酒井由香（ソプラノ）、増山理恵（フルート）、椎名慧（ヴァイオリン）、清水香里（ピアノ）、佐々木ゆき子（ピアノ）
- ◆ 時間＝11：50～12：50
- ◆ 会場＝富山市民プラザ　アトリウム

入場無料・事前申込不要 ※状況によっては入場者数を制限する場合がございます。

6／25 Sat・26 Sun　ミュージカル「四月は君の嘘」

ブロードウェイ・クリエイター×日本の若き才能が贈る世界初演ミュージカル。

- ◆ 出演＝小関裕太／木村達成（Wキャスト）、生田絵梨花、唯月ふうか、水田航生／寺西拓人（Wキャスト）ほか
- ◆ 開演＝6/25（土）12：00 ／ 17：00
  6/26（日）12：00
- ◆ 会場＝オーバード・ホール
- ◆ 料金＝［全席指定・税込］
  S席14,000円　A席　9,500円
  B席　6,000円　U-25 4,000円

好評発売中

7～12月　AUBADE HALL Presents 音楽入門講座　ビートルズ大学 TOYAMA〈全6回〉

日本屈指のビートルズ研究者・宮永正隆による「ビートルズ大学」が富山で開講決定！

- ◆ 講師＝宮永正隆（音楽評論家・ビートルズ大学学長）
- ◆ 日時＝①7/20（水）　②8/24（水）　③9/21（水）
  ④10/19（水）　⑤11/9（水）　⑥12/7（水）　各回19：00
- ◆ 会場＝富山市民プラザ　アンサンブルホール
- ◆ 料金＝［全席指定・税込］
  1講座　一般 1,500円　ジュニア（高校生以下）500円
  シリーズ通し券　一般 7,800円　ジュニア（高校生以下）2,400円

会員先行発売日：5月14日（土）のみ ／ 一般発売日：5月22日（日）～

10／15 Sat～17 Mon　ミュージカル「ミス・サイゴン」

ベトナム戦争を背景に、少女と米軍兵士の悲恋を描く名作ミュージカル。2020年に中止となった公演が、ついに富山へ！

- ◆ 出演＝市村正親・駒田一・東山義久（トリプルキャスト）、昆夏美・屋比久知奈（ダブルキャスト）ほか
- ◆ 開演＝10/15（土）12：00 ／ 17：00
  10/16（日）12：00
  10/17（月）12：00
- ◆ 会場＝オーバード・ホール
- ◆ 料金＝［全席指定・税込］
  S席15,000円　A席9,500円　B席6,000円　U-25 4,000円

会員先行発売日：6月11日（土）のみ ／ 一般発売日：7月16日（土）～

ワークショップ

6／11 Sat・12 Sun　AUBADE HALL Presents「WE♡MUSICAL」2022 オープンクラス 2Days

2日間のミュージカル体験クラスを、6つの多彩なラインナップで実施します。

- ◆ クラス／講師＝☆「こどもテーマパークダンス」／松本和宜 ※中学3年生まで
  ☆「ヴォーカル」／王子菜摘子
  ☆「はじめてタップ」／本間憲一
  ☆「ノンバーバル・パフォーマンス」／王子菜摘子
  ☆「おとなシアターダンス」／松本和宜 ※中学1年生以上
  ☆「ミュージカル・ナンバーへの入り方」／本間憲一
- ◆ 会場＝富山市民芸術創造センター
- ◆ 対象＝小学1年生以上 ※ただし対象を限定するクラスあり。
- ◆ 定員＝各クラス20名程度
  ※初参加の方・受講回数の少ない方を優先。応募多数の場合は各クラス抽選。
- ◆ 受講料＝各クラス3,000円（全2回分）
- ◆ 応募期間＝5/2（月）～15（日）
- ◆ 応募方法・詳細＝オーバード・ホールHP内特集ページ（4月中旬公開予定）よりお申し込みください。

初心者・未経験者大歓迎！

要事前申込

8～10月　AUBADE HALL Presents　コミュニティ・アーツ・ワークショップ 2022

さまざまな障がいのある方たちと、ダンスを通じて触れ合い、いつもと違う空間や時間を共有しませんか？ こころが、からだが感じるままにおどりましょう！

- ◆ 講師＝なかむらくるみ（ダンスアーティスト）　ほか演奏者予定
- ◆ 会場＝富山市民芸術創造センター 舞台稽古場
- ◆ 定員＝各回15名程度 ※申込多数の場合は各回抽選。
- ◆ 参加料＝500円 ※障がいのある方の付き添いの方1名は参加無料。
- ◆ 申込期間＝7/1（金）～11（月）※申込方法・詳細はオーバード・ホールHP内特集ページ（6月中旬公開予定）をご覧ください。

その1「みんなでおどろう！〈こども部〉」

楽器の生演奏や歌声にのせて、自由に楽しくおどる60分。

- ◆ 日時＝8/6（土）11：00　8/7（日）11：00
- ◆ 対象＝知的障がい、発達障がいのある児童・生徒、そのご家族・ご友人

その2「みんなでおどろう！〈おとな部〉」

ダンスカンパニー「あら・おるず」のメンバーと一緒におどりませんか？

- ◆ 日時＝8/21（日）11：00
- ◆ 対象＝知的障がい、発達障がいのある18歳以上の方、そのご家族・ご友人、このワークショップに興味のある方

その3「からだ、おと、おどる！〈こども部〉」

楽器に触れたり、鳴らしたり、音を感じながら、自分のからだを感じてみよう！

- ◆ 日時＝9/4（日）11：00
- ◆ 対象＝肢体不自由のある児童・生徒、そのご家族・ご友人

※10月のワークショップ等は決定次第HPでお知らせします。

講師：なかむらくるみ

Photo KATO TOMOKO

要事前申込

U-25：25歳以下対象の指定席引換券。座席は選べません。
公演当日、当日券窓口で身分証を提示、指定席券と引換の上、ご入場ください。

※情報は2022年3月17日現在のものです。新型コロナウイルス感染対策を徹底して開催します。感染状況によっては公演・ワークショップの開催に変更が生じる場合がございます。ご来場前にはオーバード・ホール公式HPで最新情報をご確認ください。

AUBADE HALL calendar 2022.4~7

アスネット …アスネットチケット取扱い
下記は2022年3月17日現在の情報です。変更および追加となる場合があります。

4	6（水）	梅沢富美男劇団特別公演 梅沢富美男＆研ナオコ アッ！とおどろく夢芝居2022	問 富山公演事務局：076-221-9015 アスネット
	9（土）	それいけ！アンパンマンミュージカル おもちゃの国とみんなのたからもの	問 北日本放送事業部：076-432-5555
	16（土）・17（日）	ミュージカル「ラ・カージュ・オ・フォール～籠の中の道化たち～」	問 北日本新聞社事業部：076-445-3355 サンライズプロモーション北陸：025-246-3939 アスネット
	23（土）	桐朋アカデミー・オーケストラ 第64回定期演奏会	問 桐朋学園音楽部門 富山キャンパス事務部教学課：076-434-6800 アスネット
	28（木）~30（土）	日仏共同製作 新作舞台作品 束芋×ヨルグ・ミュラー「もつれる水滴」	問 富山市民文化事業団：076-445-5610 アスネット
5	14（土）	TULIP 50周年記念ツアー ～ the TULIP ～	問 サンライズプロモーション北陸：025-246-3939
	17（火）	第45回 富山県立富山南高等学校吹奏楽部 定期演奏会	問 富山県立富山南高等学校：076-429-1822
	21（土）・22（日）	桐朋学園大学院大学 桐朋アカデミー・オーケストラ コンチェルト実習公開授業	問 桐朋学園音楽部門 富山キャンパス事務部教学課：076-434-6800
	27（金）	マカロックツアー vol.13 追加公演 ～なんたって10周年ツアーだぜ？ 9公演追加しました篇～	問 FOB金沢：076-232-2424
6	4（土）・5（日）	富山県立富山商業高等学校吹奏楽部 第65回定期演奏会	問 富山県立富山商業高等学校：076-441-3438
	11（土）	桐朋アカデミー・オーケストラ 第65回定期演奏会	問 桐朋学園音楽部門 富山キャンパス事務部教学課：076-434-6800 アスネット
	16（木）	劇場が結ぶ、本と音楽の世界　vol.1「羊と鋼の森」	問 富山市民文化事業団：076-445-5610 アスネット
	19（日）	富山シティフィルハーモニー管弦楽団 第49回定期演奏会	問 富山シティフィルハーモニー管弦楽団： http://toyamacpo.com/inquiry/
	25（土）・26（日）	ミュージカル「四月は君の嘘」	問 北日本新聞社事業部：076-445-3355 アスネット
7	9（土）	森山開次　新版・NINJA	問 富山市民文化事業団：076-445-5610 アスネット
	18（月・祝）	郷ひろみ Hiromi Go Concert 50th Anniversary Celebration Tour2022 ～ Keep Singing ～	問 サンライズプロモーション北陸：025-246-3939
	30（土）	とやま世界こども舞台芸術祭	問 とやま世界こども舞台芸術祭実行委員会事務局：076-441-8635（内線123）

チケット購入方法

アスネットカウンターでお買い求めください。

インターネット
アスネットオンラインチケット
www.aubade.or.jp 24時間予約可能
※ご利用の際には会員登録が必要です。

電話予約
窓口販売
アスネットカウンター（オーバード・ホール1F）
TEL. 076-445-5511
10：00～18：00
定休日：月曜（月曜が祝日の場合、翌平日休み）

オーバード・ホール会員システム「アスネット」

お得に楽しくシアターライフを満喫するためのオーバード・ホール会員システム。
ご登録いただくと、インターネットで24時間チケットのご予約が可能です。
「アスネット」には、「アスネット会員」「メール会員」2種類の会員システムがあります。

アスネット会員（年会費：1,800円）※特典1、2については1公演につき通常4枚まで。対象外の公演もございます。

- 特典1　公演チケットの先行販売
- 特典2　公演チケットの割引販売 10%OFF
- 特典3　Mite Mite や公演情報の送付

メール会員（年会費：無料）

- 特典1　公演情報のメルマガ配信

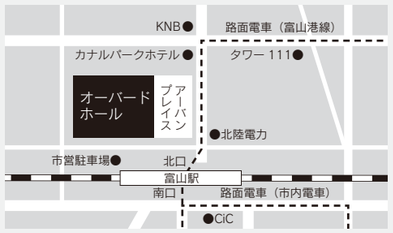
入会方法

- インターネットからお申込（オーバード・ホール HPより）
- アスネットカウンター窓口でのお申込（オーバード・ホール 1F）

オーバード・ホール公式SNSでは、主催公演などの最新情報を随時アップしています。ぜひフォロー＆いいね！してください♪

http://www.aubade.or.jp
オーバード・ホール
最新情報はHPをご覧ください

交通のご案内
鉄道利用：富山駅下車、北口正面から徒歩2分
航空利用：富山空港よりタクシーで約25分、バスで富山駅まで約30分
お車利用：北陸自動車道 富山I.C.出口から約20分



オーバード・ホール（富山市芸術文化ホール）
〒930-0858 富山県富山市牛島町9-28
TEL.076-445-5620

ミテミテ72- 2022.Spring号　発行日：2022年4月4日　発行所：公益財団法人 富山市民文化事業団 TEL.076-445-5610　企画・編集：Mite Mite編集室　Design：CROSS　Cover Photo：Gaku Imadera

舞台をつくるもの

コンサートを聴きに行くことはよくある。クラシックに限らず、ジャズも、邦楽も、ロックも好きだ。アイドルのライブに行くこともある。好きなアーティストなら、同じ公演を何度も聴きに行ったりもする。同じ公演といっても、同じではない。同じアーティストの同じプログラムのはずなのに、日によってまるで違うものになる。どれほど完成度を高めたとしても、生きている人間が演奏やパフォーマンスを行うのだから、当然のことなのかもしれない。もちろん観る側、聴く側の状態によるところも大きい。たとえば音源で何度も聴いたはずの音が、生で聴いたら別の顔を見せるようなこと。思いがけない響きがいつまでも耳の中で転がっているようなこと。ふいに歌詞の意味が胸に飛び込んできて涙が出るようなこと。自分で精いっぱい大事にしてきたつもりの音楽に、たった一度の舞台で命を吹き込まれる体験を、何度もしてきた。

ロンドンのウェンブリースタジアムでBTSを観た。ビルボードのチャートで3曲続けて1位を取る前だったけれど、世界的に人気が出てからのBTSだ。すでに日本のコンサート会場は何度応募してもなかなか当選できなくなっていた。ウェンブリーで良い席が取れたのは奇跡みたいなものだった。待ちに待ったステージに、米粒よりは少し大きい、豆粒のようなBTSが現れたとき、ゴゴゴゴゴゴォと地鳴りのような音がしてスタジアムが揺れた。たしかに揺れたのだ。何が起きたのかわからなかった。でも、気がつけば、私自身からもその地鳴りは発せられていた。熱狂する観客たちの、心の底からの歓声が熱気と共に地響きを起こしていたのだった。ステージの上のBTSのメンバーたちにも確実に伝わっただろう。地鳴りを起こすほどのエネルギーを、彼らは受けとめ、倍音のように響かせて返してくれた。舞台の輝きは、その上に立っている人たちだけでなく、観客や聴衆というこちら側の力との拮抗によってつくられるものなのだ。それを肌で知った、圧巻のパフォーマンスだった。

文：宮下奈都

©堀田芳香

宮下奈都 Miyashita Natsu：
小説家。福井県福井市生まれ。2004年、「静かな雨」が文學界新人賞佳作に入選。著書に『スコーレNo.4』『遠くの声に耳を澄ませて』『よろこびの歌』『太陽のパスタ、豆のスープ』『田舎の紳士服店のモデルの妻』『誰かが足りない』など。『羊と鋼の森』で2016年本屋大賞を受賞。